

## 分科会の記録 第4分科会 組織・運営に関する課題

### 【提言2 研究主題】

「組織力向上につながる校内コミュニケーションの活性化」  
～働きやすく人材育成につながる組織づくりのために教頭ができること～

【提言者】三養基地区教頭会 みやき町立中原中学校 河野 貴徳

### 【協議の柱】

組織力向上につながる校内コミュニケーションの活性化のために教頭ができることは何か。

### 【協議内容】

- ・チーム担任制の役割分担等については、経験の浅い若手教員とベテラン教員を組み合わせることで、学校運営のリスク軽減と若手教員のチャレンジを両立できている。若手教員が主担当の場合はベテラン教員がフォローをしている。全体としての検証はこれからやっていくが、現在のところ全職員前向きに取り組んでいて、うまくいっている。
- ・チーム担任制は、人と合う・合わない等、組み合わせや人間関係をよく考える必要がある。
- ・チーム担任制のマッチングのポイントは、組み合わせる教諭の性格をしっかりと把握することである。現在チーム担任制はうまく機能していると思うが、現状維持ではなくプラスアルファを求めるようにしていきたい。
- ・チーム担任制を実施しているが、「ベテランは口を出さず、若手に主導権をもたせる」という方法を行っている。
- ・再任用教員（2.5日勤務）の校務分掌や部活動担当等、割り当てを行うことが非常に厳しい。授業中心に入れているのが現状である。
- ・メンターとメンティを決めて校内研をしたり、若手主任とベテラン副主任を組み合わせたりする。
- ・スキルアップ研修等は決まった曜日の放課後に実施している。ミニ講師は順番制で、30分間得意分野での研修を行っている。
- ・ミニ研修会については、それぞれの強みを生かせる研修会として実施できている、教員の主体性を高めることにつながっている。

### 【指導助言】西部教育事務所 管理主任 中島 良太 氏

- ・教員の平均年齢がずっと下がってきており、10年間で小学校では2歳程度、中学校では1歳程度年齢が下がってきている。課題として、ミドルリーダー世代が非常に少なくなっている。
- ・今の若い世代を中心に、働き方改革・人材育成に向けた取組は非常に貴重な働きかけである。事例を3つ紹介する。
  - ① 現実を見える化する。  
⇒客観的なデータ（24Hの自分のスケジュール等）を振り返り、周囲と共有する時間をとることで意識改革に繋げる。
  - ② 何のためにやっているのか、効果はあるのかということを検証する。  
⇒行事活動の事前準備や校内研究の事前研や事前授業について、改善や廃止などを話し合うことに繋げる。
  - ③ 個人のスキルやタイムマネジメントではなく、組織的な問題として取り組む。  
⇒人材育成の取組の1つとしてチーム担任制があげられる。関わりや気付きの幅が増えること、OJTとしてノウハウが共有されることなどのメリットがある。